

# 紀 要

(人文・社会・自然)

第 48 号

昭和薬科大学

2014

## 薬局実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の 学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析

寺田綾子\*、中村美樹、渡部一宏、廣原正宜、高野昭人、  
澁谷文則、田口恭治、瀧本知之、堀口よし江、戸田潤

\*昭和薬科大学 医療薬学教育研究センター

## A Comparative Analysis of Self-evaluation of Pharmacy Students and Evaluation of their Preceptor Pharmacists After Community Pharmacy Practice Training

Ayako TERATA\*, Miki NAKAMURA, Kazuhiro WATANABE,  
Masayoshi HIROHARA, Akihito TAKANO, Fuminori SHIBUYA,  
Kyoji TAGUCHI, Tomoyuki HAMAMOTO, Yoshie HORIGUCHI  
and Jun TODA

\*Educational and Research Center for Clinical Pharmacy,  
Showa Pharmaceutical University

### 要 旨

昭和薬科大学では、薬局実務実習のより一層の充実化を図るため、平成23年度学生及びその受入薬局（指導薬剤師）を対象に、実習項目〔目標（SBOs）〕の到達度に関する学生の自己評価と指導薬剤師による学生評価をアンケート調査し、それぞれを比較検討した。その結果、指導薬剤師は全体に「到達した」と評価しているのに対し、学生自身は「不十分」と評価しており、両者に認識の違いがみられた。この原因として、体験が難しい到達目標の場合、薬局によっては繰り返し学べる頻度が少ないことなどが学生の不満として現れたものと考えられる。その他、学生が低いと感じているSBOsを抽出し、その原因を考察した。

### キーワード

薬局実務実習、アンケート調査、実務実習モデル・コアカリキュラム、到達目標（SBOs）、評価

### I. はじめに

平成18年度より新しい時代の医療を担う薬剤師の養成を目指し、患者とその家族、また薬剤師を含む医療現場で働くスタッフなど多くの人々からの期待を受けながら6年制薬学教育課程がスタートした。薬学教育6年制課程では、「実務実習モデル・コアカリキュラム（以下モデル・コアカリキュラム）」に準拠した薬局実務実習（以下薬局実習）の実施が提示されており、長期実務実習開始後2年を経た今、大学、実習施設側など多

方面から評価が行われ、その成果と課題が報告されてきた（鈴木、2011；戸田、2011；河西、2012；宮嶋、2012；大鳥、2011）。

我々はこれまで全国的な評価と独立して本学独自の調査票により、実務実習の改善を目的としてアンケート調査を行って来た。「平成22年度薬局実務実習に関するアンケート調査」の結果として、「学生の自己評価」（寺田ら、2011）<sup>†</sup>と「指導薬剤師の実習全体に対する意識調査」（寺田、2012）<sup>‡</sup>について報告したが、そこでは、実習内容、実習指導及び実習環境に関して学生は概ね高く評価していた。また、指導薬剤師は自身の実習指導や受講学生に対して高い評価をしている。しかし、学生から「カリキュラムの全てについて十分に学ぶことができなかった」という意見や、指導薬剤師から「全てのカリキュラムをこなすことは負担が大きい」などの意見も聞かれた。

平成23年度、本学では5年次238名の学生が190施設で薬局実習を行った。今回、これまでのアンケート調査から得た結果を踏まえ、学生が「十分に学ぶことができなかった」とする到達目標（SBOs）と、指導薬剤師が「こなすことが大変である」と感じるSBOsに焦点を絞り、学生の到達度自己評価と指導薬剤師による学生の到達度評価を比較することで到達度不十分なSBOsを抽出し、その原因を分析することにした。

## II. 方法

本調査の方法を以下に示した。

**【調査対象】** 平成23年度薬局実習を行った昭和薬科大学5年次学生（238名）のアンケート調査票、およびその指導にあたった受入薬局指導薬剤師（193名）による学生の成績評価表を対象とした。

**【調査時期】** 各実習期終了1週間後に調査した。また、実習体制に関しては、実習開始前に指導薬剤師に対し自己記入式質問票を用いて調査した。

**【調査方法および調査用紙】** 学生には「実務実習モデル・コアカリキュラム」の見出しを基に大学で作成したアンケート用紙を使用（**図1**／自己記入式多肢選択型および自由記述による記名式アンケート）、指導薬剤師には学生に対する成績評価表（**図2**／総括的評価表）を使用した。

<sup>†</sup>寺田綾子、2011、長期実務実習を実施した学生及び指導薬剤師の意識調査 薬局実務実習、日本薬学会第131年会要旨集4号、357。

<sup>‡</sup>寺田綾子、2012、初年度薬局実務実習の受け入れにおける指導薬剤師の意識調査、日本薬学会第132年会要旨集4号、342。

2011. I期 学生 ポスト

**2011 年度 I 期 薬局実務実習に関するポスト調査 (学生)**

====あなたの情報====○をつけてください。=====

性別 ①男 ②女 クラス ①A ②B 氏名 \_\_\_\_\_  
 配属コース ①総合薬学コース ②臨床薬学コース ③情報薬学コース  
 希望進路 ①病院 ②保険薬局 ③ドラッグストア ④公務員 ⑤企業 (MR) ⑥企業 (開発・研究)  
 ⑦大学院進学 ⑧企業 (製薬以外【 \_\_\_\_\_ 】) ⑨未定

\* 記入いただいた調査は、秘密保持に留意し、実務実習の実施の際の参考にするのみを目的とし、成績などの評価等の使用は致しません

1. 薬局実習を終えて、各項目について最も該当する番号に○をつけて下さい。

[ 1 全くそう思わない 2 そう思わない 3 どちらともいえない 4 そう思う 5 とてもそう思う ]

	実習項目	回答番号
1	実習期間 (2.5 カ月) は適切であった	1・2・3・4・5
2	実習施設に満足できた	1・2・3・4・5
3	指導薬剤師に満足できた	1・2・3・4・5
4	指導薬剤師の指導方法や内容に対して満足できた	1・2・3・4・5
5	実習施設の設備 (器具, 図書など) は満足できた	1・2・3・4・5
6	実習内容は、適切な難易度だった	1・2・3・4・5
7	実習内容は、知的好奇心が刺激された	1・2・3・4・5
8	大学の担当教員や大学のサポート体制に満足できた	1・2・3・4・5
9	4 年生のときの大学での事前実習は役に立った	1・2・3・4・5
10	薬剤師なるために必要な実習だと感じた	1・2・3・4・5
11	自分自身成長したと感じた	1・2・3・4・5
12	全体的に、薬局実習は満足できた	1・2・3・4・5

2. 薬局実習を終えて、以下の各項目はどのくらい重要だと感じましたか？また、各項目についてどの程度習得したと思えますか？最も該当する番号に○をつけて下さい。

重要性… [ 1 全く重要ではない 2 重要でない 3 どちらともいえない 4 重要である 5 大変重要であると思う ]

習得度… [ 1 全く習得できなかった 2 習得できなかった 3 どちらともいえない 4 習得できた 5 十分に習得できた ]

	実習項目	重要性	今のあなたの習得度
1	薬局アイテムと管理について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
2	薬局製剤と漢方製剤について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
3	薬局での医薬品情報業務について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
4	薬局でのリスクマネジメント対策について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
5	保険調剤業務の全体の流れについて	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
6	処方せんの受付について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
7	処方せんの鑑査と疑義照会について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
8	計数・計量調剤と鑑査について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
9	服薬指導について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
10	調剤録について、調剤報酬について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
11	患者・顧客との接遇について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
12	一般用医薬品・医療用具・健康食品について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
13	薬局カウンター業務について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
14	在宅医療について	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5
15	地域医療・地域福祉・地域保健	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5

3. 上記の 1～15 のうち、実習で興味を湧いた項目を順に 3 つ挙げて下さい。

[ 1 番: \_\_\_\_\_ ] [ 2 番: \_\_\_\_\_ ] [ 3 番: \_\_\_\_\_ ]

4. 上記の 1～15 のうち、実習で興味がなかった項目があれば順に 3 つ挙げて下さい。

[ 1 番: \_\_\_\_\_ ] [ 2 番: \_\_\_\_\_ ] [ 3 番: \_\_\_\_\_ ]

5. その他、薬局実習に関することで感想・意見等がありましたら、裏に自由にお書きください。

ご協力 ありがとうございます

2011 年度 昭和薬科大学 実務実習委員会

図 1. 学生用アンケート用紙

平成23年度 薬局実務実習 学生の成長度の測定

学籍番号 \_\_\_\_\_ 学生氏名 \_\_\_\_\_

【評価基準】 1: やや不十分 2: 到達した 3: 十分に到達した

(1) 薬局アイテムと管理			
《薬局アイテムの流れ》	1	2	3
《薬局製剤》	1	2	3
《薬局アイテムの管理と保存》	1	2	3
《特別な配慮を要する医薬品》	1	2	3

(4) 薬局カウンターで学ぶ			
《患者・顧客との接遇》	1	2	3
《一般用医薬品・医療用具・健康食品》	1	2	3
《カウンター実習》	1	2	3

(2) 情報のアクセスと活用			
《薬剤師の心構え》	1	2	3
《情報の入手と加工》	1	2	3
《情報の提供》	1	2	3

(5) 地域で活躍する薬剤師			
《在宅医療》	1	2	3
《地域医療・地域福祉》	1	2	3
《災害時医療と薬剤師》	1	2	3
《地域保健》	1	2	3
《地域対応実習》	1	2	3

(3) 薬局調剤を実践する			
《保険調剤業務の全体の流れ》	1	2	3
《処方せんの受付》	1	2	3
《処方せんの鑑査と疑義照会》	1	2	3
《計数・計量調剤》	1	2	3
《計数・計量調剤の鑑査》	1	2	3
《服薬指導の基礎》	1	2	3
《服薬指導入門実習》	1	2	3
《服薬指導実践実習》	1	2	3
《調剤録と処方せんの保管・管理》	1	2	3
《調剤報酬》	1	2	3
《安全対策》	1	2	3

(6) 薬局業務を総合的に学ぶ			
《総合実習》	1	2	3

平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

薬局名: \_\_\_\_\_

指導責任者 \_\_\_\_\_ 職責: \_\_\_\_\_

氏名: \_\_\_\_\_ 印

【指導者からのコメント】 (実習態度: 積極性、誠実性、マナーなどを含む)

\_\_\_\_\_

図2. 指導薬剤師の学生に対する成績評価表 (総括的評価表)

## 1. 学生による自己評価

### 1.1. 実習項目に対する到達度

「モデル・コアカリキュラム」に対し、学生がどの程度到達しているかを把握するために、「モデル・コアカリキュラム」から実習ユニットとして15項目を設定し、学生自身が各々の実習ユニットに対してどの程度習得しているか質問した。回答は、「5：十分習得した」、「4：習得した」、「3：どちらともいえない」、「2：習得できなかった」、「1：全く習得できなかった」の5段階評価で回答する方式とした。

### 1.2. 本実習に対する自由記述

学生に対し、薬局実習に対する自由記述を任意で依頼した。

### 1.3. アンケート調査への同意について

学生に対し、「アンケート調査内容の利用に際しては、秘密保持に留意し、実務実習の実施の際の参考にすることのみを目的とする」旨をアンケート用紙に記載し、記名での回答を依頼した。その上でアンケート用紙の提出をもって同意とみなした。

## 2. 指導薬剤師の学生到達度評価

### 2.1. 実習学生に対する成績評価表の活用

実習終了後「成績評価表」の26項目について、指導薬剤師が実習生の到達度を「3：十分到達した」、「2：到達した」、「1：不十分」の3段階評価で評価した結果を利用することにした。

### 2.2. 本実習に対する自由記述

指導薬剤師に対し、薬局実習に対する自由記述を任意で依頼した。

### 2.3. 実習施設の実習体制について

協力薬局の有無を把握する目的で「薬局実習を自薬局でのみ行っているか、もしくは複数の施設で行っているか」を実習前に質問した。複数の施設で行っているという回答者には、さらにその実習項目、実習場所について尋ねた。

## 3. 評価項目の統合について

学生の実習項目（中項目に相当）と指導薬剤師の評価項目に違いがある為、学生の実習項目に指導薬剤師の評価項目を対比し、同義のものを統合し、計15項目を調査項目とした（表1）。

表 1. 学生アンケートの項目と指導薬剤師の評価項目の対比表

学生のアンケートの項目	指導薬剤師の評価の項目
薬局アイテムと管理について	薬局アイテムの流れ
	薬局アイテムの管理と保存
薬局製剤と漢方製剤について	薬局製剤
薬局での医薬品情報業務について	薬剤師の心構え
	情報の入手と加工
	情報の提供
薬局でのリスクマネジメント対策について	特別な配慮を要する医薬品
	安全対策
保険調剤業務の全体の流れについて	保険調剤業務の全体の流れ
処方せんの受付について	処方せんの受付
処方せんの鑑査と疑義照会について	処方せんの鑑査と疑義照会
計数・計量調剤と鑑査について	計数・計量調剤
	計数・計量調剤の鑑査
服薬指導について	服薬指導の基礎
	服薬指導入門実習
	服薬指導実践実習
調剤録について、調剤報酬について	調剤録と処方せんの保管・管理
	調剤報酬
患者・顧客との接遇について	患者・顧客との接遇
一般用医薬品・医療用具・健康食品について	一般用医薬品・医療用具・健康食品
薬局カウンター業務について	カウンター実習
在宅医療について	在宅医療
地域医療・地域福祉・地域保健について	地域医療・地域福祉
	災害時医療と薬剤師
	地域保健
	地域対応実習

#### 4. 評価尺度統一のためのデータ変換について

学生の到達度評価と指導薬剤師の成績評価の評定尺度がオリジナルデータでは異なっている。学生と指導薬剤師の評価を比較するためには、学生の評価を指導薬剤師の評価尺度に合わせ、5段階から3段階評価への変換処理を行う必要がある。すなわち、学生の5段階評価を比例配分し、「5：十分習得した」を3点、「4：習得した」を2.4点、「3：どちらともいえない」を1.8点、「2：習得できなかった」を1.2点、「1：全く習得できなかった」を0.6点と数値化した後、平均を算出し、到達度数とした。

指導薬剤師の3段階評価は「3：十分到達した」、「2：到達した」、「1：不十分」の尺度をそのまま点数と見なし、平均を算出して到達度数とした。

また、学生の5段階評価の、「5：十分習得した」を指導薬剤師の「3：十分到達した」と見なし、以下、「4：習得した」を「2：到達した」に、「3：どちらともいえない」、「2：習得できなかった」、「1：全く習得できなかった」を「1：不十分」と読み替え、

指導薬剤師の3段階評価と統合した(表2)。

表2. 調査項目と評価尺度の統合

	学生		指導薬剤師	
(1)対象	平成23年度に薬局実習を受講した本学学生238名		薬局実習先の指導薬剤師193名	
(2)調査用紙	実務実習モデルコアカリキュラムの見出しを基に、 大学で作成したアンケート用紙		成績評価表(総括的評価表)	
(3)調査時期	各実習期終了1週間後		各実習期終了1週間後	
(4)評価尺度	5段階評価を比例配分し数値化後、 3段階評価へ読み替え		3段階評価	
	「5:十分習得した」	3点	「3:十分到達した」	3点
	「4:習得した」	2.4点	「2:到達した」	2点
	「3:どちらともいえない」	1.8点	「1:不十分」	1点
	「2:習得できなかった」	1.2点		
	「1:全く習得できなかった」	0.6点		

### Ⅲ. 結果

#### 1. アンケートの対象と回収

対象学生:238名、回答学生数(回収率):236名(99.2%)

対象薬局:190施設(指導薬剤師)

アンケート回答実習施設数(回収率):161施設(84.7%)

成績評価表回収施設数(回収率):190施設(100%)、成績評価表回収数(回収率):238名分(100%)。

#### 2. 学生の自己評価の内訳

学生の自己評価の結果を図3に示す。全15項目で、60~90%(平均76%)の学生が「十分到達した」、「到達した」と自己評価している。「十分に到達した」と評価した学生の割合は12.3~45.3%(平均23%)であった。

「到達度が不十分である」という学生の割合は15項目で8~40%(平均24%)で、「保険調剤業務の全体の流れについて」の8.1%から、「在宅医療について」の40.3%とばらつきが見られた。特に、「薬局製剤と漢方製剤について」(36.4%)、「一般用医薬品・医療用具・健康食品について」(36.9%)、「在宅医療について」(40.3%)の3項目で、到達度が「不十分」であるという回答が高値であった。



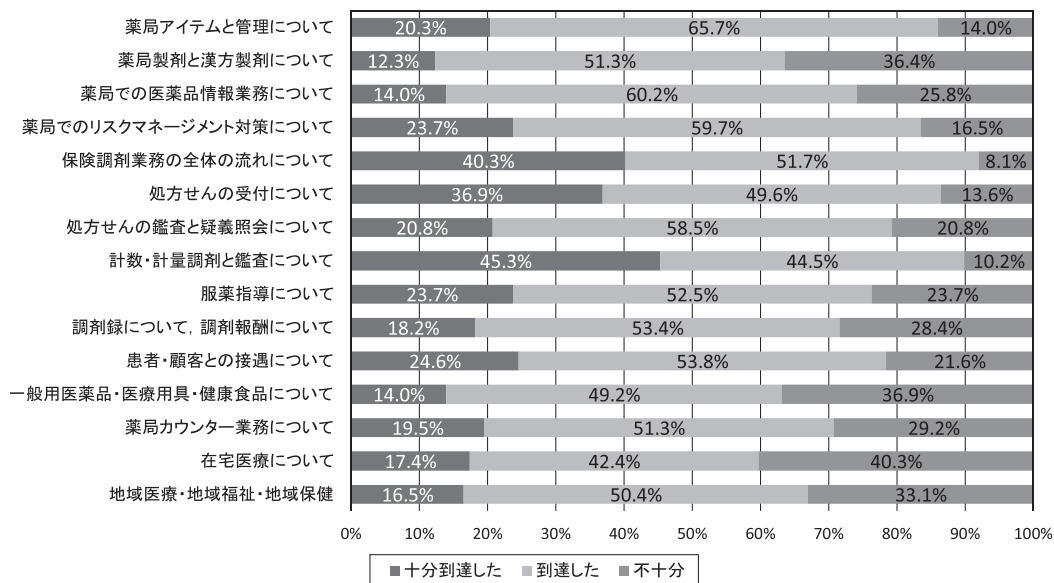


図3. 学生の自己評価

### 3. 指導薬剤師の評価の内訳

指導薬剤師の評価の結果を図4に示す。全項目において、「十分到達した」、「到達した」と評価した比率（合計）は98.5～100%（平均99.4%）であった。特に、「十分に到達した」と評価した割合は、62～89%（平均99.4%）であった。「不十分」とした回答は1%以下だった。

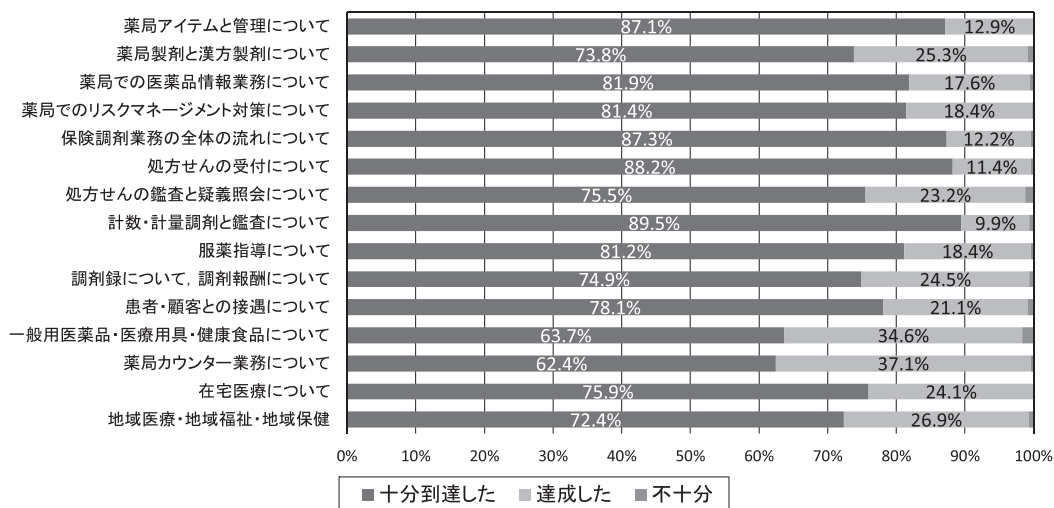


図4. 指導薬剤師の学生に対する評価

#### 4. 学生の自己評価と指導薬剤師の評価の比較

実習項目の到達度に対する学生の自己評価と指導薬剤師の評価を比較した（図5）。

学生の各項目に対する到達度自己評価は平均で2.21～2.61（3段階評価）であった。これに対し、指導薬剤師の到達度評価の平均値は2.62～2.89であった。

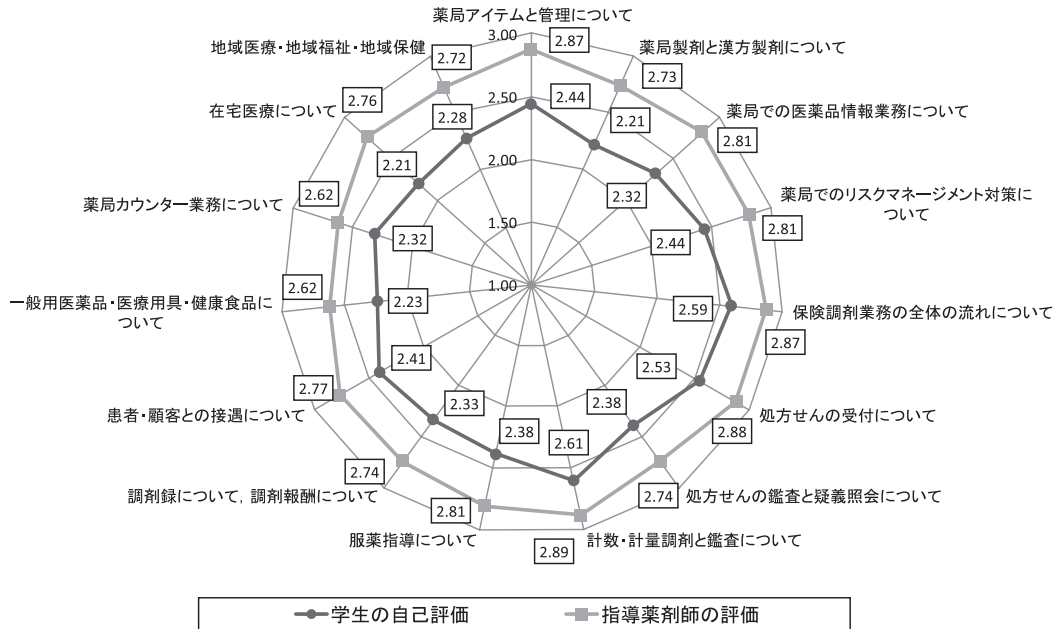


図5. 学生および指導薬剤師による評価平均値の比較

学生の自己評価は、全体的に指導薬剤師の評価より低かった。特に、全15項目中、「薬局製剤と漢方製剤について」、「在宅医療について」の2項目で指導薬剤師の評価が2.73、2.76に対し、学生の自己評価が共に2.21と低値であり、到達度評価の差が大きく (>0.5)、両者の到達度に対する認識の違いが認められた (表3)。

表3. 学生および指導薬剤師の評価平均値

	実習項目	指導薬剤師	学生	両者の差
1	薬局アイテムと管理	2.87	2.44	0.43
2	<b>薬局製剤と漢方製剤</b>	2.73	2.21	<b>0.52</b>
3	薬局での医薬品情報業務	2.81	2.32	0.49
4	薬局でのリスクマネジメント	2.81	2.44	0.37
5	保険調剤業務の全体の流れ	2.87	2.59	0.28
6	処方せんの受付	2.88	2.53	0.35
7	処方せんの鑑査と疑義照会	2.74	2.38	0.36
8	計数・計量調剤と鑑査	2.89	2.61	0.28
9	服薬指導	2.81	2.38	0.43
10	調剤録、調剤報酬	2.74	2.33	0.41
11	患者・顧客への接遇	2.77	2.41	0.36
12	一般用医薬品・医療用具・健康食品	2.62	2.23	0.39
13	薬局カウンター業務	2.62	2.32	0.30
14	<b>在宅医療</b>	2.76	2.21	<b>0.55</b>
15	地域医療・地域福祉・地域保健	2.72	2.28	0.44
	平均	2.78	2.38	0.40

## 5. 薬局実務実習に対する感想・意見

実習に対する学生からの感想・意見（自由記述）が19件寄せられた（表4）。その中で、「幅広く学ぶことができ、とても勉強になった」という回答が複数あったが、2名の学生からそれぞれ「薬局内で体験できない項目については講義・DVDによる実習のみで不十分に感じた」、「漢方製剤や在宅医療を行っていない薬局だったので、実習で実際の現場を見たかった」という回答があった。

表4. 本実習に対する学生の自由記述の内容（全19件）

	自由記述の内容
実習内容・実習指導について（12件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広く学ぶことができ、とても勉強になった（3件）</li> <li>・疑義照会を行い、医師に怒られたということがあり、OSCEの手技にとらわれると実習で通用しないことを感じた（2件）</li> <li>・勉強になったことはたくさんあるが、2.5ヶ月間の実習期間は長く感じた（2件）</li> <li>・薬局の雰囲気がよかった（1件）</li> <li>・指導薬剤師が常に多忙であり、あまり多くのことを教えていただけなかった（1件）</li> <li>・薬局内で体験できない項目については講義・DVDによる実習のみで不十分に感じた（1件）</li> <li>・実習先により、医薬品の種類、数量、薬剤師の経験などに差があり、実習内容に差が生じていると感じた（1件）</li> <li>・漢方製剤や在宅医療を行っていない薬局だったので、実習で実際の現場を見たかった（1件）</li> </ul>
大学のサポート体制について（7件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員は研究室の教員か実務家教員にして欲しい。（2件）</li> <li>・大学での成果報告会では、いろいろな薬局・病院の発表を聞けたらよい（2件）</li> <li>・SBOsの到達度のチェックはオンラインで日々見て頂く形が実習の進捗度がわかりやすいと思う（1件）</li> <li>・伝達事項は、なるべく実習中にメールで送るのではなく、事前にガイダンスなどで伝えて欲しい（1件）</li> <li>・学内で使っていた名札をそのまま使っていたが、実習用に白衣の胸ポケットにクリップでとめるタイプを配って欲しい（1件）</li> </ul>

一方、指導薬剤師からの感想・意見（自由記述）は116件寄せられた（表5）。本学学生に関して、「積極性」に対する回答や、「社会人としてのマナー」などについての回答が多く見られたが、中でも「薬局内が人手不足の為、学生に満足させる実習が出来るか不安である」、「業務が多忙で、実習指導に時間を取るのが難しかった。学生には宿題として実施させてもらった」、「自分の薬局と他の薬局との実習内容の差をどのように均一にするかが難しい」など実習内容、自身の実習指導について問題を感じている回答もみられた。

表5. 薬局実務実習に対する指導薬剤師の自由記述の内容 (全116件)

	自由記述の内容
実習内容・自身の実習指導について (15件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段の業務を見直すチャンスとなり、学生を指導することで自分の勉強になった (9件)</li> <li>・ 薬局内が人手不足の為、学生に満足させる実習が出来ているか不安である (2件)</li> <li>・ 業務が多忙で、実習指導に時間を取るのが難しかった。学生には宿題として実施させてもらった (1件)</li> <li>・ 自分の薬局と他の薬局との実習内容の差をどのように均一にするかが難しい (1件)</li> <li>・ 病院・薬局薬剤師の仕事だけでなく、MRや倉庫管理などの現場での実習も必要なのではないか (1件)</li> <li>・ II期は祝日が多く、実習内容の調整が大変だった (1件)</li> </ul>
本学学生について (60件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極性があった (14件)</li> <li>・ 学生がムードメーカーとなり、薬局全体にいい風が吹いた (2件)</li> <li>・ 知識、技能ともに素晴らしかった (11件)</li> <li>・ 薬局のスタッフ、患者さんに対する礼儀やマナー、実習後のお礼状などしっかりしていた (2件)</li> <li>・ 宿題もこなし、調べ物もしっかり取り組んでいた (1件)</li> <li>・ 社会人としてのマナー (髪型、服装、化粧、言葉遣い、遅刻など) について実習前に大学でしっかり指導して欲しい (8件)</li> <li>・ ExcelやPowerPointなどPCを使いこなせないため、実習前に大学でしっかり指導しておいて欲しい (2件)</li> <li>・ 実習を行う上での技能、知識が身につけていない (3件)</li> <li>・ 学生としての気構えが少なく、積極性がなかった (13件)</li> <li>・ 患者さんへの配慮が足りない (1件)</li> <li>・ 実習日誌の書き方がなっていない (1件)</li> <li>・ 他の大学の学生と仲良くなれないようで気を遣った (1件)</li> <li>・ 学生との信頼関係を築くのに時間がかかった (1件)</li> </ul>
実習カリキュラム・大学について (41件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学の対応がしっかりしていた (5件)</li> <li>・ 大学の事前説明会などもしっかりしており、安心して実習を始められた (1件)</li> <li>・ 実習日誌が手書きだったため、学生が一生懸命取り組んでいる様子が伝わり印象がよかった (1件)</li> <li>・ 実習日誌が手書きであったので、負担が少なくよかった (2件)</li> <li>・ 事前に学生の成績を教えて欲しい (1件)</li> <li>・ 事前に学生の苦手な分野などを知りたい (1件)</li> <li>・ 実習日誌はWebなどの電子媒体を希望する (12件)</li> <li>・ 訪問回数が2回でよかった (1件)</li> <li>・ 2回訪問であったが、これからは1回の訪問でよい (4件)</li> <li>・ 担当教員は学生の研究室の教員であって欲しい (5件)</li> <li>・ 実務系の教員を実習の担当教員にして欲しい (1件)</li> <li>・ 教員が遠い薬局にかかわらず訪問して下さり、申し訳なかった (1件)</li> <li>・ 訪問時の「学生へ対するメッセージ」は面談内容とかぶっており、不要である (3件)</li> <li>・ 大学は学生に過保護すぎる (2件)</li> <li>・ 「到達度チェック表」は何をもって「到達する」となるのか、教えるのが負担であった (1件)</li> </ul>

## 6. 実習施設の実習体制について

実習開始前の指導薬剤師に対し、「自薬局でのみ全ての実習内容を行っているか、もしくは複数の施設で分担して行っているか」について質問した結果を表6に示す。190施設を受入薬局のうち、159施設（83.7%）は「複数の施設で実習内容を行っている」と回答しており、31施設（16.3%）は「自薬局のみで全ての実習内容を行っている」と回答していた。複数の施設で実習していると回答した159施設に対し、「どの実習項目についてか」を尋ねたところ、「薬局製剤、漢方製剤」という回答が最も多く、「総合研修を地域薬剤師会にて行っている」とのことだった。他に「一般用医薬品の供給、販売」を「近隣のドラッグストアにて行っている」、「漢方製剤」に関する研修を「近隣の漢方薬局にて行っている」、「様々な診療科の処方に対する研修を同社のグループ内の他薬局にて行っている」などの回答が得られた。また実習日数については、半日から2日程度実施しているという回答であった。

表6. 実習施設の実習体制について

選択肢	回答数（施設）	%
複数の施設	159	83.7
自薬局でのみ	31	16.3
未定	6	3.2
合計	190	100

## IV. 考察

まず、学生の自己評価と指導薬剤師の評価の平均点を比較した結果について考察する（図3）。学生と指導薬剤師の到達度評価の差が特に大きい項目（差>0.5）は、「薬局製剤・漢方製剤について」、「在宅医療について」の2項目であった。この原因のひとつとして、一部の薬局で実施が難しい実習項目であることが挙げられる。実習施設の実習体制に関する調査結果（表6）からも明らかのように、80%以上の薬局が複数施設で実施していることから、全ての薬局で容易に実施できない実習内容である。他の施設と協力しながら実施しても数時間～2日程度の短期間の体験となるため、繰り返し学べる頻度が少ないことが影響していると推測できる。日本薬剤師会が作成した「6年制薬局実習の受け入れ薬局に対する日本薬剤師会の基本的な考え方」（2008年7月一部改定）では、「薬局実習は、1つの薬局で完結することを原則とする」とあるが、今回の調査より、複数の施設で行っている受入薬局が多いことが示唆された。また同時に受入薬局について「受入薬局のみで到達目標の全てを実習することができない場合の対応」として「薬局製剤に関するもの、漢方製剤に関するもの、在宅医療に関するものは他の薬局へ委託することができる」とあるが、他の薬局へ委託していても実習時間が短く、十分な実習内容の実施が難しいことが示された。学生と指導薬剤師の自由記述からも、体験型により学生が繰り返し学習することが難しい実習項目に関して、学生が「不十分である」と感じることがあり、指導薬剤師が指導に対して不安を感じているケースがあることも示唆されている。実務実習モデル・コアカリキュラムでは「参加型実習」を基本としているが、これらの実習項目について学生が自ら体験し、繰り返し学習する頻度を増やすことで実務実習モデル・コアカリキュラムの十分な到達が期待できるといえる。

薬局実習の全ての実習項目を十分に達成するためには、複数の施設による頻回な薬局実習の実施を提案したい。学生は繰り返し学習を重ねることで、理解を深め、十分に達成したと感ずることが出来る。また、複数の施設との連携により、役割の分担が可能となり、一部の指導薬剤師にかかる負担が軽減し、実習項目もほぼ網羅できるといった利点も考えられる。さらに指導内容を互いに補い合うことで、実習内容の均質化の実現と、薬局同士の積極的な情報の共有化により、漏れのない薬剤師実務のトレーニングの実現が期待できる。

次に、学生の自己評価（図4）と指導薬剤師の学生に対する評価（図5）の結果を比較してみた。

指導薬剤師は全項目に対して「十分到達した」、「到達した」と評価した割合（合計）が100%近くときわめて高値であり、学生に対し非常に高い評価をしている。それに対し、学生は「十分到達した」、「到達した」と自己評価した学生の割合（合計）は平均で76%であった。

両者の到達度に対する認識の違いがみられた原因は、学生が薬局実習を体験したことで自身の知識不足を自覚し、そのことによって指導薬剤師に比べて過小に評価したと考えられる。学生の評価では、特に全15の実習項目中で「薬局製剤と漢方製剤について」（36.4%）、「一般用医薬品・医療用具・健康食品について」（36.9%）、「在宅医療について」（40.3%）の3項目に関し、自己評価が他の項目と比較し『不十分』とする評価が大きな割合を占めた。これらの項目について、指導薬剤師の評価（図5）と比べたところ、他の項目に比べて「十分到達した」とする評価の割合は低いものの、「不十分」という回答は低く、学生は到達しているとする回答が90%以上であった。これは、指導薬剤師が学生に対し「薬剤師」のレベルを求めておらず、「学生」のレベルで評価していることによる過大評価と考えられる。従って、我々が設定した今回の評価基準に対する両者の認識の相違がこうした結果を生んだものと考えられる。

また、指導薬剤師—大学教員の間での情報や意見の交換も重要である。大学で行っている実務実習事前学習（以下、事前学習）の内容を受入薬局の指導薬剤師も把握することで、薬局実習において学生のレベルに合わせた指導を行うことができる。一方、大学では、学生自身が薬局実習にて学習する意欲を維持できるように、事前学習において自発性を高める指導の工夫が必要であるといえる。事前学習から学生自身が積極的に参加することで、薬局実習にて学生の満足度が上昇し、より高い学習効果が期待できるといえる。

これらの項目に関し、今回の調査結果を受入薬局へフィードバックし、指導薬剤師と大学教員との共同体制で改善策の検討を行いたい。また、大学として事前学習の内容を再検討する必要がある。今後も更なる検討を続け、学生と指導薬剤師の到達度評価の差を縮めるような努力していきたい。

## V. 結論

今回の調査時期は長期実務実習が始まって2年目ということで、指導薬剤師側も教育指導に要領を得てきた時期であった。しかし、まだ改善すべき点が多く、その内容も様々であった。学生が薬局実習の全ての実習項目を十分に到達できるようにするために、複数の施設で繰り返し体験をする学習の実施を提案したい。今回の調査を材料とし、今後、全ての学生が「十分に達成した」と評価できるような充実した薬局実習を目指し、指導薬剤師と大学教員との共同体制で改善策を実行に移していきたい。

## 謝 辞

本調査に際し、ご協力いただいた本学学生および薬局実習における指導薬剤師の方々に深く感謝申し上げます。

## 参考文献

- 鈴木匡, 2011, 6年制薬学部教育を薬局業務に活かす試み, 薬局薬学, 3: 3-10.  
戸田潤, 2011, アンケートからみえてきた実務実習の成果と課題, 月刊薬事, 53(1): 23-26.  
笠井秀一, 2012, 6年制実務実習に関する検証, ファルマシア, 48(5): 411-416.  
宮寫優美子, 2012, 実務実習における集合学習がもたらしたもの, 薬局薬学, 4: 1-9.  
大鳥徹, 2011, 6年制長期実務実習第1期、第2期に関する学生アンケート調査  
Customer Satisfaction (CS) 分析により抽出された改善項目, 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌, 9(1): 17-26.



編集委員 吉永真理(委員長)、江成元伸、鈴木英明、  
船本常男、水谷顕洋、堀内正子、  
小林茂樹、渡部一宏、小泉直也

## 紀 要 第 48 号

2014年2月25日発行

発行者 昭和薬科大学 西 島 正 弘  
東京都町田市東玉川学園3-3165  
TEL 042-721-1511  
FAX 042-721-1588

印刷所 コムネッツ株式会社  
東京都町田市根岸2-2-3  
TEL 042-794-1600  
FAX 042-794-1651

BULLETIN  
of  
Showa Pharmaceutical University

Vol.48

Showa Pharmaceutical University

2 0 1 4